

目次

2022年度第2回部門理事会・評議員会合同会議について	1
第79回国際酸素製造者協会 (IOMA) ポルトガル・シントラ年次総会へ参加	2
在宅酸素療法における火気の取扱いについて	4
賛助会員 —高圧昭和ボンベ株式会社—	6
第16回MGR認定試験の結果	7
高圧ガスハンドブック第4次改訂版発行のご案内	9
株式会社鈴木商館の水素ステーションを見学しました	10
知多炭酸株式会社本社工場を見学しました	11
株式会社CRC西日本、公益財団法人水素エネルギー製品研究センター (HyTReC)を見学しました	12
新事務局員の紹介	13
ウェブサイト掲載お知らせ一覧 —2022年10月15日~2022年12月15日掲載—	14
気ままにコラム	15



2022年度第2回部門理事会・評議員会合同会議について

11月22日、ホテルグランヴィア大阪にて2022年度第2回部門理事会・評議員会合同会議を開催しました。

産業ガス部門理事会は、定数11名のところ9名が出席、医療ガス部門理事会は定数13名のところ12名が出席しました。評議員会は、産業ガス部門定数13名のところ10名、医療ガス部門は定数14名のところ13名が出席しました。(代理出席含む)



理事会・評議員会合同会議の様子

上原会長は挨拶で、新しい形式での理事会・評議員会の開催、コロナ第8波、ウクライナ情勢、北朝鮮情勢等の世間動向およびJIMGA一体化に向けた進捗について述べました。

決議事項および報告事項

決議事項では、議長に選出された上原会長の進行により、第1号議案「入会希望事業者審査の件」の審議・決議が行われ、全会一致で承認されました。

報告事項では、「2022年度上期活動報告」、「同上期収支計算書報告」、「機能別組織への再編と諸制度の見直しによる運営合理化、適正化の活動進捗報告」、「JIMGA本部事務所移転の検討開始」および「内部監査報告」等が行われました。

議案書を、JIMGAウェブサイトの [会報誌・本部活動報告] > [理事会・評議員会] (<https://www.jimga.or.jp/report/rijikai>) に記載しております。会員ログインのうえご覧ください。
(広報委員会 事務局 能瀬 憲宏)



第79回国際酸素製造者協会 (IOMA) ポルトガル・シントラ年次総会へ参加

2022年10月16日～18日、第79回国際酸素製造者協会 (International Oxygen Manufacturers Association : IOMA) 年次総会が、3年ぶりに一堂に会してポルトガルのシントラのペンハロンガリゾートで開催されました。世界の23か国から産業ガスビジネスに関わる経営者、合計114名の参加がありました。JIMGA会員企業からは3社14名が参加し、JIMGAからは羽坂常務執行役員、専務理事として私、澤木が出席しました。

シントラは首都リスボンから30kmの場所にあります。歴史的にイスラム教とキリスト教の文化が合わさった建造物が残る山あいにある町で、昔から王族や貴族の避暑地でした。1995年に世界遺産に登録された観光地です。

国際委員会 (1日目)

10月16日午後1時より、年次総会に先立って国際委員会 (Global Committee : GC) が行われ、岩谷産業(株)堀口副社長と喜村部長、大陽日酸(株)三木常務執行役員と久和野部長、エア・ウォーター(株) 富増部長 (松林副社長の代理)、JIMGAからは羽坂常務執行役員と澤木が参加しました。

持続可能性指標の統合化活動においては、炭酸ガスの排出量の算出方法として、GHGプロトコル¹⁾を基本として、統合化を行うことが確認されました。また、カーボンニュートラル実現に向けた水素消費量の拡大に伴う安全維持活動として、水素戦略会議を4協会 (AIGA、CGA、EIGA、JIMGA) が参加して進めるよう指示がありました。堀口委員 (岩谷産業(株)) から、産業ガス業界の水素取扱いの安全基準をHydrogen Council²⁾へ周知するため、IOMAの関与を強めるよう提案があり全員の賛成が得られました。

- 1) GHGプロトコル : 温室効果ガス (Green House Gas/GHG) の排出基準を算定・報告する際の国際的な基準
- 2) Hydrogen Council: 世界の水素ビジネスに関わる企業約200社の経営者が参加し、共通の基盤でイニシアチブを形成するために設立された委員会

ウエルカムレセプション (1日目)

IOMA参加者が30～40名の2グループに分かれてクルーズ船に乗り、シントラからリスボンへ移動しました。途中、小型飛行機による花火の打ち上げや海岸添いのライトアップされた博物館、寺院等の名所・旧跡を辿りながら約2時間かけて移動しました。

夕食会場である国立馬車博物館では、15世紀以降のポルトガルの王族の馬車と絵画が展示されており、参加者には夕食とともに、ポルトガルのギター演奏と歌が披露されました。



1日目のウエルカムクルーズ(左)と国立馬車博物館でのJIMGA会員のディナー風景

総会とプレジデントバンケット(2日目)

午前8時半から、総会1日目がスタートしました。理事会メンバーの紹介の後、IHCメンバーが、IOMAプレジデントであるTodd Skare氏（Linde）より紹介されました。恒例の全員の自己紹介が45分ほど行われ、講演へと進みました。Air Liquide 会長のBenoît Potier氏とニューヨーク市のリスク交流センター長 Vincent Covello氏が、リスクマネジメントに関する基調講演を行った後、パネルディスカッションが行われました。

午後6時半からのカクテルディナーに続いて、プレジデントバンケット（ドレスコード：フォーマル）が行われました。ここでは、Web開催となった2020年、2021年の総会での国際統合化功労賞受賞者であるWolfgang Doerner氏（Linde）とSudhir Phakey氏（Linde）の2名と2022年度の受賞者Greg DeVincentis氏（Air Products）が同時に表彰されました。



プレジデントバンケットでのIOMA&IHCメンバーの記念撮影(左)と国際統合化功労賞受賞者

総会の水素戦略プランパネルディスカッション(3日目)

総会2日目は、GC議長であるIvo Bols氏から、IHCの活動概要を説明した後、AIGAのMilan Sarker事務局長、CGA Rich Gottwald代表、EIGA Philippe Cornille事務局長、JIMGA羽坂常務執行役員が参加してIOMAの水素戦略プランに関するパネルディスカッションが行われました。JIMGAからは、日本の水素ビジネスの実情について説明しました。経済産業省がリードし、ビジネス展開されており、法整備が進んでいることを報告しました。その後、地球環境問題、ロシア・ウクライナ戦争等のリスクへの対応について、Eduardo Gil Elejoste社長（Nippon Gases Europe）とBernard Sestini CEO（SIAD S.p.A）の講演がありました。



IHCメンバーによる水素戦略プランパネルディスカッション(左)と日本の水素ビジネスの報告

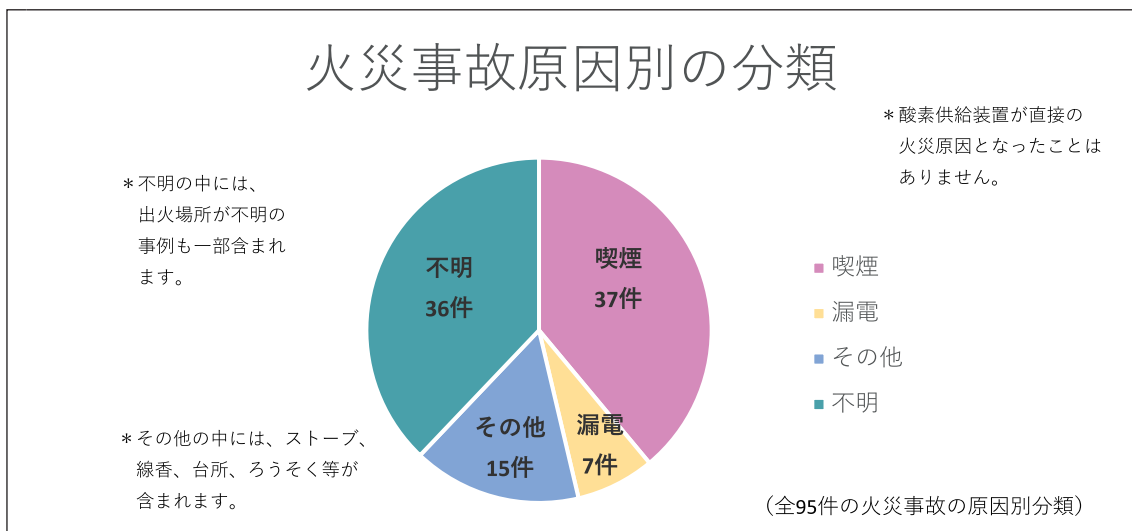
初めてのIOMA会議への参加でしたが、国際的に産業ガス、医療ガスの分野で一つの枠組の中で企業活動が続けられている実感を得ることができました。世界と調和した共通の安全基準の必要性を肌で感じるとともに、IOMAの意義を改めて認識しました。

来年の第80回IOMA年次総会は、2023年10月14日～18日の予定で、アメリカのワシントンDCで開催される予定です。
（専務理事 澤木 実）

在宅酸素療法における火気の取扱いについて

在宅酸素療法では酸素濃縮装置、液化酸素および酸素ポンベを使用し、酸素ガスを吸入するため、取扱説明書や添付文書において支燃性ガスである酸素ガスと火気を近づけてはならない旨が記載されています。

しかし、在宅酸素療法中の火災事故により患者が被害に遭うケースが毎年発生しています。2003年度～2022年度上期でJIMGAが確認している火災事故データでは、89件の死亡、6件の重傷となっています。主な火災原因は、喫煙、台所での火気使用、線香、仏壇でのろうそく他、漏電、不明となっています。



火災事故原因別の分類（2003年度～2022年度上期）

喫煙が原因の事故が最も多いことは間違いありませんが、これから冬を迎えストーブ等火気の取扱いの機会が多くなることから、在宅酸素部会員を始め会員各位におかれましては、医師に対して十分な注意喚起をお願いいたします。また今一度、機器設置および保守点検などの機会に、在宅酸素療法を行う患者・家族に対しても、安全な機器の使用法、注意事項等の提供とともに、火気への注意、酸素吸入中の禁煙の重要性を十分説明し、安全対策に万全を期していただけるよう啓発活動を重ねてお願いいたします。

また、令和2年8月17日に発出された厚生労働省通知「医療ガスの安全管理について」（医療ガス安全管理通知）では、「当該病院等において医学管理を行っている患者の居宅その他病院等以外の場所で使用される医療ガス」も新たにこの通知が適用されることになりましたので、十分ご留意願います。

「在宅酸素療法を実施している患者居宅で発生した火災による重篤な健康被害の事例」について、詳しくはこちら↓

https://www.jimga.or.jp/files/page/hot/oyakudachi/HHN_jiko.pdf

在宅酸素火災予防キャンペーンポスターを作成しました

JIMGA在宅酸素部会ではこのような火災事故をなんとしても撲滅するためのキャンペーンとして、「在宅酸素火災予防キャンペーン」を4年前から展開しています。

今年は、日本医療ガス学会、日本呼吸器財団の後援を得てキャンペーンを行っており、活動の一環として火災予防をテーマとした標語を在宅酸素部会特別部会会員会社より募集しました。第三者による選考委員会において厳正な選考を行いポスター掲載の標語が決定しました。

2022年度選出標語

「油断は禁物 小さな火 酸素があると 大きな火」

選出された標語を掲載したポスターを作成しました。どなたでも無料でダウンロードができますので、在宅酸素療法における事故防止のために、医療従事者や在宅酸素事業者、患者や家族に、ぜひ配布ください。

在宅酸素療法を実施している患者宅における火災事故がなくなり、安心して安全にご使用いただけるよう、お役立てください。



ポスター（A4版）ダウンロードはこちら↓

https://www.jimga.or.jp/files/news/jimga/221107_kasaiyobo_poster.pdf

在宅酸素療法火災予防啓発動画（2022年版）もご覧ください

前号でもご案内のとおり、2022年版在宅酸素療法火災予防啓発動画「携帯用酸素ボンベの取扱いの注意」、「在宅酸素療法における火気取扱いの注意」をリリースしました。ウェブサイトから無料で視聴可能です。患者・家族に周知いただき、在宅酸素療法を正しく理解いただけるようご活用ください。下記URLまたはQRコードよりぜひご覧ください。



「携帯用酸素ボンベの取扱いの注意」
https://www.jimga.or.jp/hot/zaitaku_keitai/



「在宅酸素療法における火気取扱いの注意」
https://www.jimga.or.jp/hot/zaitaku_kaki/



(技術・保安グループ HOT事務局)

賛助会員 — 高圧昭和ボンベ株式会社 —

高圧昭和ボンベ株式会社の発足は2001年となりますが、1937年創業の昭和高压工業株式会社（現土浦工場）、1968年創業の東洋ボンベ株式会社（後に日本ボンベに改称、現亀山工場）、1953年創業の日本高压容器株式会社（1982年に日本ボンベに吸収合併）を前身とする、高压ガス容器メーカーとして長い歴史を持つ会社です。



旧昭和高压工業(株)創業1号容器

この容器は皇紀2598年（西暦1938年）10月1日製造の酸素ガス容器で、耐圧試験圧力250ATM（24.5MPa）、最高充填圧力150ATM（14.7MPa）、重量83.8kg、内容積48.4Lです。規格は現在と同じですが、刻印表示がかなり異なっています。

事業について

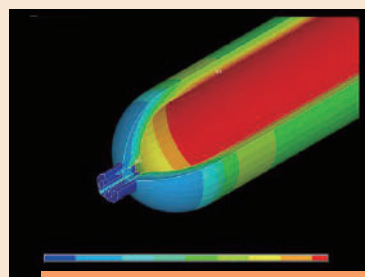
当社は高压ガス容器の総合メーカーとして、一般用鋼製シームレス容器を中心に、半導体分野向けに腐食性ガス、高純度ガス充填用の鋼製クリーン容器・ステンレス製容器を製作しています。また、ガスの大量輸送・大規模消費に適した長尺容器や設備用蓄圧器、大型溶接容器も各種取り揃えています。更に、これらの容器を集約し、架台や配管などを組み込んだカードル・ユニットの製作も行っており、一貫したご提案が可能です。

シームレス容器は、両工場ともに鋼塊から成型するエルハルト式製造法を採用しており、高い気密性を有した容器の製造・販売を行っています。

2019年に超高压タイプ（設計圧力95MPa、内容積300L）の水素ステーション用蓄圧器を株式会社日本製鋼所と共同開発しました。今後も水素社会の実現に向けて、低压から超高压にわたる水素蓄圧器の開発・製造・販売を拡大してまいります。



超高压タイプ水素蓄圧器



応力解析

今後について

「人と技術と環境の調和。無限の可能性に挑む。」というグループ理念のもと、無限の可能性を求めて、高压ガス容器の総合メーカーとして日々躍進してまいります。

また、「安全・安心をすべての基本姿勢」とし、お客様の様々なご要望に応えるべく、製品ラインアップの拡充を目指してまいります。（高圧昭和ボンベ株式会社 代表取締役社長 杉岡 孝雄）

第16回MGR認定試験の結果

第16回MGR認定試験を2022年12月4日(日)、全国5会場(札幌・仙台・東京・大阪・福岡)で実施しました。試験結果の概要につきましては以下のとおりです。

試験の実施状況

※(再)は全受験者数のうち再受験者数

試験科目	試験時間	受験者数	欠席者数
医療ガス	11:00～12:00	126名(再29)	11名
制度・法令	13:00～14:00	107名(再11)	9名
疾病と治療	14:20～15:20	119名(再24)	9名
合計		140名(再43)	11名

採点の結果

試験科目	科目合格者数	科目不合格者数	科目合格率	平均点 (100点換算値)
医療ガス	102名(再24)	24名	81.0%	66.5点
制度・法令	73名(再8)	34名	68.2%	61.6点
疾病と治療	90名(再14)	29名	75.6%	67.1点

MGR認定者数

MGR認定者数…3科目合格者(科目免除と過去の科目合格を含む)

MGR認定者数:83名(うち再受験者の認定は30名)合格率:59.3%

過去の試験合格者数(2007年度～2022年度)

回数・年度	合格者数※	合格率
第16回(2022年度)	83名	59.3%
第15回(2021年度)	120名	67.4%
第14回(2020年度)	83名	60.6%
第13回(2019年度)	82名	53.6%
第12回(2018年度)	92名	58.2%
第11回(2017年度)	184名	82.9%
第10回(2016年度)	134名	57.5%
第9回(2015年度)	130名	62.8%
第8回(2014年度)	150名	62.2%
第7回(2013年度)	121名	55.0%
第6回(2012年度)	174名	74.4%
第5回(2011年度)	214名	92.6%
第4回(2010年度)	317名	89.2%
第3回(2009年度)	605名	89.9%
第2回(2008年度)	997名	89.0%
第1回(2007年度)	785名	86.0%

試験結果の通知

- ・試験合格者の受験番号（下5桁）を本頁に受験会場ごとに掲載しています。
- ・MGR認定証は、3月中旬を目途に管理者宛に送付する予定です。

※MGR認定試験は科目ごとに合格が認められています。合格の有効期間は翌年から3年間ありますので、不合格科目がある方は次回チャレンジしてください。

第16回MGR認定試験合格者

認定試験合格者数 83名
(受験者数 140名)

※受験番号の上3桁「222」は省略し下5桁のみを掲載

※合格者数の下の（ ）は受験者数を示す

(札幌)	10名	00001	00002	00004	00006	00008	00009	00010	00011	00012	00015
	(14名)										

(仙台)	7名	10001	10002	10003	10004	10009	10012	10022
	(20名)							

(東京)	38名	20001	20002	20003	20007	20008	20009	20010	20013	20014	20015
	(61名)	20017	20018	20019	20021	20024	20025	20026	20032	20033	20036
		20038	20040	20042	20044	20045	20046	20048	20050	20053	20054
		20055	20056	20058	20059	20062	20063	20065	20068		

(大阪)	22名	30004	30006	30007	30008	30009	30010	30011	30013	30014	30015
	(29名)	30016	30017	30018	30019	30020	30021	30024	30025	30027	30028
		30029	30030								

(福岡)	6名	40001	40006	40008	40009	40010	40016
	(16名)						



東京会場

(教育事業委員会 MGR部会 事務局)

高圧ガスハンドブック第4次改訂版発行のご案内

背景

前回の改訂（2019年7月）以降、関係法令や基本通達等の一部改正・施行が著しいこと、そして業界として大きく影響することとなったコールド・エバポレータ（CE）の定義見直しに係る高圧ガス保安法関係法令が改正されたことを受け、高圧ガスハンドブックの記載内容に変更が必要となったため、「高圧ガスハンドブック」の改訂を行いました。

改訂の概要

1. 高圧ガス保安法令の改正に係る主な変更内容

- ① CEに関する記載箇所へ高圧ガス保安法規改正内容を追記
付録へ「CEの定義見直しに係る法規改正の内容」を追加
 - ・ CE定義の改正内容
 - ・ CEの設備構成パターンによる適用例
 - ・ CEの処理能力計算例
 - ・ CEの保安検査周期
 - ・ CEの耐圧検査、気密検査の範囲
- ② 医療用酸素用一般複合容器の容器再検査周期等の改正
- ③ その他、表現の変更、用語の統一、コラムの差替え、修正、索引の修正等

2. その他法令等に関する変更内容

- ① 各ガスの「毒性指標」の見直し、米国産業衛生専門官会議（ACGIH）から引用したデータから日本産業衛生学会からのデータへ変更
- ② ガス集合溶接装置の設置・変更等の計画届出（労安法）を追記
- ③ SDS提供義務のある物質名・数の修正
- ④ 通行制限のあるトンネル例の修正（独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構）

第4次改訂ではデザインを刷新し、読みやすく取り扱いしやすいハンドブックに変身します。
発売時期は、2023年2月を予定しています。 （技術・保安グループ事務局）

高圧ガスハンドブック 第4次改訂版

基準番号：JIMGA-T-S/27/22

会員価格：5,500円

一般価格：8,250円

- 表紙デザイン、価格等は変更になる場合があります。最新の情報は、ウェブサイトにてご確認ください。



表紙イメージ

株式会社鈴木商館の水素ステーションを見学しました

11月10日、関東地域本部技術保安部会炭酸ガス技術グループは、株式会社鈴木商館の中部国際空港貨物地区内の水素ステーションを見学しました。

中部国際空港は名古屋駅から特急電車で約30分とアクセスが良く、周りを伊勢湾に囲われた大変眺望の良い空港です。見学者は事前申請と検問がありました。

本設備について同社技術本部高圧機器部山本哲也部長より、「2015年、愛知県の水素エネルギー社会形成研究会の中で、中部国際空港での水素エネルギーの利活用を推進する中部国際空港FC産業車両導入促進WGが立ち上がりました。WGでは3年間にわたり数々の技術的な検討を重ね、2018年11月に愛知県、中部国際空港、トヨタ自動車、豊田自動織機、鈴木商館の協業にて、水素社会の実現を目指す産業車両用水素ステーションが開所されました。国内で唯一の空港内商用再生エネルギー水素ステーションとして、今日まで無事故無災害にて安全に運営されています。2021年度のCO₂削減量は約94tです」との説明がありました。 (関東地域本部 事務局 蛭川 剛二)



見学時の様子



【設備仕様】

- 太陽光発電設備：CIS太陽電池パネル（185W×284枚；約50kW）
- 水素製造装置：高分子純水電解型（最大10Nm³/h）
- 水素圧縮装置：レシプロ式4段圧縮,常用圧力45MPa
- 水素蓄圧器：タイプ3複合容器 300L×4本（常用圧力45MPa）
- ディスペンサー：35MPa充填（ノンプレクール）
- 再エネ水素製造量：約240Nm³/日

（提供：(株)鈴木商館）

本設備について詳しくは以下をご覧ください。

<https://www.suzukishokan.co.jp/suiso/index.html>

知多炭酸株式会社本社工場を見学しました

関東地域本部技術保安部会炭酸ガス技術グループは、11月11日に、委員の安全・保安に関する知見の向上のため、知多炭酸株式会社本社工場を見学しました。

同社は愛知県の知多市で1982年に操業開始した液化炭酸ガス・ドライアイスを製造販売する会社で、全国需要の7%程度を担っています。

炭酸ガスは自動車の溶接や製鉄、炭酸飲料等に、ドライアイスは食品の冷却輸送等に使用されていて、産業を広く支えると同時に私たちの生活に必要不可欠なものです。

同社の原料となる炭酸ガスは、隣接する出光興産の石油精製の過程で副生し、本来大気中に排出される炭酸ガスを回収利用しています。また、液化する際には液化天然ガス（LNG）の冷熱を利用して冷却することで高い省エネを実現しています。

本社工場長の長谷川光一氏より、「このように環境負荷の少ない製品を通して社会に貢献することが私たちの誇りですが、近年カーボンニュートラルの流れの中で原料炭酸ガスの調達が厳しくなっており、高品質の製品をいかに安定してお客様のもとへ供給していくかが将来に向けての課題となっています」とのご説明がありました。

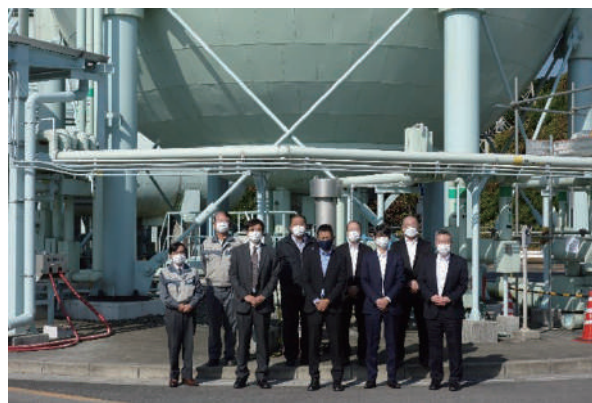
（関東地域本部 事務局 蛭川 剛二）



工場全景（伊勢湾をのぞむ）



液化炭酸ガス製造プラント



安定供給のため2018年度に新設された
850トン大型タンク



株式会社CRC西日本、公益財団法人水素エネルギー製品研究センター (HyTReC) を見学しました

関東地域本部技術保安部会アセチレン技術グループと近畿地域本部技術・保安部会、充填ガス部会は合同で、11月24日に株式会社CRC西日本、25日に公益財団法人水素エネルギー製品研究センター (HyTReC) を見学しました。

株式会社CRC西日本

(株)CRC西日本は、JIMGAが中心となり会員14社が出資して山口県の錦帯橋近くに設立した、不要になった容器や放置容器を処理する工場です。

島田社長と徳安工場長から、同社で処理している容器の種類・本数・処理方法等の概要説明がありました。また、内容物不明容器を処理する場合、ガス種によって処理方法が異なるため、今までの経験をもとに分析し、適切に処理をするための苦労話等を聞くことができました。顧客等からの容器処理依頼時の対応方法等に関する質疑応答もあり、大変参考になりました。

その後、実際に処理を行っている工場を見学し、古いアセチレン容器はアスベストが含まれているため飛散防止対策を行い、くず化している様子や、特殊ガスを処理する燃焼除外装置やアルカリスクラバー等を見学しました。処理を依頼される容器は、高圧に充填されている状態かもしれませんし、内容物は毒性や可燃性のガスかもしれませんので、容器処理は大変危険な作業ですが、安全第一で適切な処理をされていることがよく分かりました。



CRC西日本での説明会の様子



CRC西日本事務所前

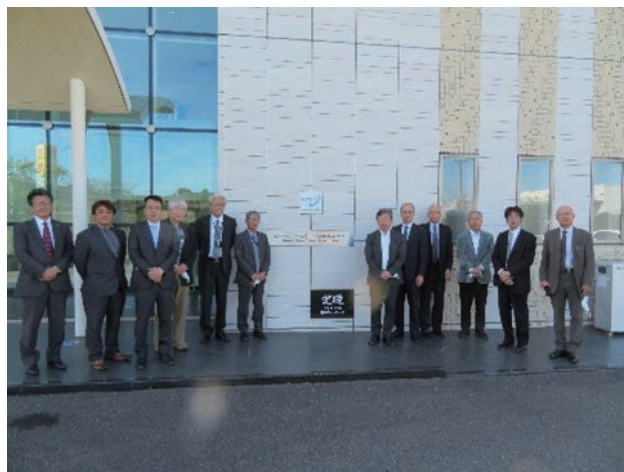
公益財団法人水素エネルギー製品研究センター

(公財)水素エネルギー製品研究センターは、博多駅から筑肥線で40分ほどの筑前前原駅近くの産業団地にある水素関連の容器や付属機器のいろいろな試験を行うセンターです。入り口近くには、トヨタの水素自動車MIRAIの実際の水素タンクのカットモデルや破裂試験を行った時の破裂した状態のタンクが展示されています。

このセンターでは、水素関連企業からの依頼で耐圧試験、環境温度サイクル試験、膨張量測定試験等が行われます。最大圧力が380MPaGで破裂試験を実施できる設備もあります。

これから発展する水素社会で必要とされるさまざまな設備が、世の中に出る前にこの施設で何回も試験が繰り返され安全が確認され、耐久性や品質の向上も確認されていることが分かりました。コロナ禍で見学者も一時期減っていたようですが最近は見学者も増えており、私達が見学した午後も学生の見学が予定されているとのことでした。

(近畿地域本部 事務局 徳富 栄一郎)



CRC西日本での説明会の様子

新事務局員の紹介



名 前：松本 朝子（まつもと あさこ）

現住所：東京都

趣 味：プライムビデオでの映画鑑賞

抱 負：産業・医療ガスについての知識はございませんでしたが、私たちの生活において非常に重要なものであることを知りました。一日でも早く業務を覚えるよう日々精進してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



ウェブサイト掲載お知らせ一覧 —2022年10月15日~2022年12月15日掲載—

JIMGAウェブサイトでは、会員の皆様に向けた最新の情報をお知らせページにて掲載しています。2022年10月15日~2022年12月15日までに掲載したお知らせをまとめましたので、URLよりご覧ください。最新のお知らせはこちら→<https://www.jimga.or.jp/news/>



- 2022.12.12 【周知依頼】年末年始期間中に帰省される方への検査受検の呼びかけについて
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1282>
- 2022.11.29 2023年賀詞交歓会開催のお知らせ
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1281>
- 2022.11.25 【周知依頼】直近の感染状況等を踏まえた国民の皆様への呼びかけについて
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1280>
- 2022.11.09 組織再編と制度見直しの具体的内容に関する地域本部説明会開催概要
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1276>
- 2022.11.08 【配慮要請】令和4年9月17日から同月24日までの間の暴風雨及び豪雨による災害により影響を受けている下請中小企業との取引に関する配慮について
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1279>
- 2022.11.08 「在宅酸素療法火災予防啓発ビデオ(2022年版)リリースについて」
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1278>
- 2022.11.07 「在宅酸素火災予防キャンペーン」2022年度火災予防標語決定
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1277>
- 2022.10.28 JIMGAnews 第72号発行のご案内
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1275>
- 2022.10.24 今秋以降の感染拡大期における感染対策についての分科会提言に関する周知のお願いの件（周知依頼）
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1274>
- 2022.10.24 「職場における検査等の実施手順（第3版）」（周知依頼）送付の件
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1273>
- 2022.10.24 マスクの着用に関するリーフレットについて（周知依頼）
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1272>
- 2022.10.19 株式会社CRC西日本のページを更新しました
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1271>
- 2022.10.19 事業者による酸化エチレンの自主管理促進のための指針の策定について(通知)
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1270>
- 2022.10.17 「水素ガスSDS&ラベル」差し替えのご案内
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1269>
- 2022.10.17 高圧ガス容器の移動中の事故防止について（注意喚起）
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1268>

気ままに コラム

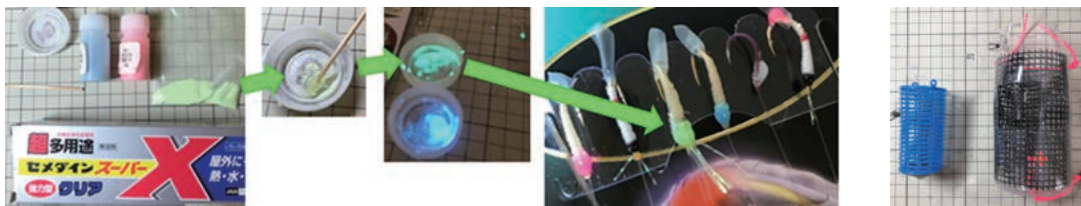
私の趣味はズバリ海釣りです。自宅から車で1時間半ほどの距離にある千葉県房総半島にある勝浦漁港かその周辺の港で、飽きもせず1年中アジを釣っています。残念ながら、アジしかほとんど釣って帰らないものですから家族

からはアジはもういらないと言われる始末です(泣)。それでもめげずに真冬も真夏もせつせと港通いしています。友人家族と行ったり一人でいったりしていますが、最近の夜は寒いのでたき火をして暖をとったりしています(外房はたき火禁止が多くご注意願います)。

釣りも多少工夫していて、サビキに夜釣れるようにと蛍光塗料を塗ってみたいり、通常のコマセ(寄せ餌)かごの5倍くらいのかごを手製で制作してみたいりと少しでも釣果をあげようとしています。誰よりもコマセを撒いて(海洋汚染?)更にサビキを工夫しているにもかかわらず、写真後ろの友人(名人級?)と変わらない釣果なのが悔しいところです。



左：夜の港でたき火、右：友人親子と釣り



蛍光塗料をサビキの頭に塗って更にケイムラ塗料も塗っています

左：かご市販品、右：手製

下記の写真は11月中旬ごろ勝浦漁港での釣果です。朝方でAVE20cmのアジが80匹越えでした。久しぶりに爆釣で楽しかったです。でも周りの釣り師からはそろそろ小物のアジ釣り師と干物職人から卒業して、大物のクロダイや真鯛やブリと一緒に釣ろうよと誘われて



干物になりました

まだまだ干物職人から卒業できません

います。全然釣り方も違うので、現在そっちの釣りに転向しようか悩んでいる最中ですが、少しずつYouTubeで勉強しています。いつか皆さんに大物が釣れたら報告したいと思います。でもずっと先だと思えます(苦笑)。

(企画・事業グループ 佐藤 寿郎)